

気候変動を学ぶ — かなえっこどつきどきスクール —



デジタル地球儀を見る

朝から元気いっぱい

鼎壮年団 伊藤慎太郎

7月26日、朝9時から夜9時まで「かなえっこどつきどきスクール」を開きました。壮年団としても企画に携わり、親としても参加しました。子ども36人が7つの班に分か

れ、工作や遊びに取り組みました。総勢89人。廃油からアロマキャンドルとランタンを作りました。捨てるはずの油が明かりに変わる驚き。デジタル地球儀で気候変動の話も聞きました。はじめはぎこちない班も、ペーパータワーづくりで言葉が増えていきました。遊ぶときは遊び、講師の話はきちんと聞く。初対面でも年下への気配りがあり、家では見せない顔がありました。大人が驚くほど子どもは最後まで元気でした。支えてくださった皆さまに感謝申し上げます。

えんいほくぞい

昭和30年代前半、鼎で生まれ鼎で育った私は現在も姿を変えない鼎小学校と鼎中学校を見ると想い出すことがあります。

どちらも50年以上も前に建て替えられた校舎です。私は小学校の引越しも中学校の引越しも経験してきた年代です。机と椅子を持ち、階段を登り新校舎へ運んだことを思い出します。そんな廻り合わせの世代なのだと感じます。

したがって古い木造の小学校舎・中学校舎も過ごしてきて知っている。スノコの渡り廊下・子ども心に怖かった離れ便所。薪ストーブで煙かったこと。特に印象強いのは中学校の正面玄関が素敵だったこと。もう一度今の大人の目で見てみたい。

子どもや孫は古い木造校舎の話など興味も無く、そんな子どもの頃の想い出話を共有できる友人達と会う機会、話す機会も少なくなってきました。

かなえの事、地区の事、振り返り学びたい時間も取りたいが、なかなか……。

(上山 H・K)

いいだ人形劇フェスタ2026 県地区公演

7/30~8/2



県みつば保育園



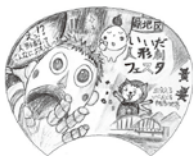
県公民館



切石会館



上茶屋多目的センター



今年度制作した
オリジナルうちわ
デザイン
県小5年
松生徠那

受付から会場までの誘導などに取り組み、終演後は劇人さんと交流しました。劇人と多くの観客と運営スタッフが三位一体となる人形劇フェスタを体現できた公演でした。

おてらおやつクラブで作られたオリジナル「分福茶釜」で、80名を超える観客の前に、冒頭からパワフルな演技で子ども達のみならず大人までも心を驚掴みにされ、人形劇の世界に引きずり込まれアツという間の60分間でした。

8月1日、人形劇フェスタ2026の地区公演を下茶屋・中平分館合同で県公民館において「おてらおやつ劇場山添真寛」を迎えて、ひとり人形芝居「ぶんぶくぶんぶく」を上演しました。

笑顔あふれる
パワフルひとり人形芝居
中平分館長
黒河内隆史

9/6 県地区縦断駅伝大会 結果

【総合順位】

- 1 位 切石分館
- 2 位 下山分館
- 3 位 東分館

【分館の部】

優勝 切石分館

【小学生の部】

優勝 県剣道部

【一般の部】

優勝 菅沼メディカルズ



切石分館



登壇各氏、市担当者、公民館主事の皆様のご指導に感謝します。

去る6月20日(土)、県文化センターを主会場に県・館報関係者研修会があり県下120名が参加。館報の意義や役割について考え、理解を深めました。

館報は、身近なコミュニケーションです。作り手、読み手がお互いに住んでいる地域を知ること、地域全体が住みやすくなっていったら……、やりがいを持ち楽しく活動していきたい、とくくりました。実務者研修も活発でした。

私の地区の公民館報

広報委員長 櫻井勝司

上山

約800人が来場
納涼祭盛況上山文化部長
宮島 隆

7月18日、上山区民センターで納涼祭を開催しました。

当日は厳しい暑さとなりましたが、午後5時の開場から多くの皆さんが来場し、約800人で賑いました。ステージでは

歌の披露をはじめ壮年団によるスイカ早食い競争、GMDダンスドリル部による元気いっぱいダンスが披露され、大きな拍手が送られました。また、感謝申し上げます。

下茶屋
盛り上がった
区民納涼祭下茶屋分館長
鈴木 政宏

7月18日下茶屋区民納涼祭を開催して、親子連れなど、230名の来場者で会場は賑わいました。

も達の長蛇の列ができて、楽しんでいました。キッチンカーもやって来て、お祭りムードは最高潮。

オープニングは、茶屋町太鼓の勇壮で迫力ある太鼓演奏で始まり、屋台では、連日の猛暑日に、焼き鳥・フランクフルト・焼きそば・五平餅の灼熱料理の暑さも加わり奮闘していました。

射的とくじ引きでは子供

納涼祭を通じて、区民の皆様との新たな出会い、交流があり、有意義な時間でした。

分館活動

夏祭り
大盛況

東 県

夏の賑わいが
教えてくれたこと東県分館長
米山 和彦

7月25日の東県納涼祭は、目玉企画のけん玉と太鼓の競演、そして65年ぶりに囃子屋台が復活し、この地に受け継がれてきた思いが形となり、重なる場面となりました。賑わいはお祭そのものの、真夏の会場は熱気に包まれ、地域の連帯感を強く感じる一日でした。

その3日後の28日には令和8年熊本地震が発生し、公民館自体が被災しました。

たり、避難所となる現実をテレビ画面で目の当たりにしました。同じように人が集う場であっても、そこにある意味は大きく異なります。この幸せで平穏な日常が続くよう願うとともに、防災時の連携につながる「顔の見える関係」の大切さを再確認し、これからも公民館がその一役を担っていただけるよう、思いを新たにしました。

西 県

豪雨の中の夏祭り

西県分館長
赤羽 雅彦

令和8年8月8日という、8が3つ並ぶのは30年ぶりという記念すべき日に夏祭りが行われました。祭りが始まる頃からあいにくの豪雨に見舞われましたが、何とか開催することができました。

屋外の模擬店では定番の焼きそばや唐揚げ、いか焼き、巻き寿司などの販売が行われ、いずれも大盛況でした。また、屋内では射的や高齢者と子

ども達による七夕飾り作りなどが行われました。残念ながら小学生による花火大会は中止になりましたが、バンド演奏で大いに盛り上がり、最後はビンゴゲームで締めとなりました。雨中の開催でしたが、多くの区民の方が楽しく過ごせた夏の夜のひとときでした。ご協力いただいた各団体、有志の方他全ての皆様にお礼を申し上げます。

南アルプスの美しい高山植物を未来へ

― 植生復元に情熱を注ぐ

切石 八幡秀彦さん(58歳)



皆さんは、南アルプスの高山植物が今どのような状況に置かれているかご存じでしょうか。

1990年代頃からニホンジカが高山域へ進出し、ニッコウキスゲなどの美しい高山植物が食害により絶滅の危機に直面しました。そんな現状を食い止めるべく、2002年に「南アルプスボランティアネットワーク」が発足。今回取材した切石の八幡秀彦さんも2007年から活動に身を投じ、今年で20年目を迎えた一人です。

八幡さんたちの作業は多岐にわたります。名峰での防鹿柵の設置や浸食防止、登山道の整備など、厳しい山岳環境の中で汗を流しています。「柵を設置して6年

ほど経つとニッコウキスゲが、10年経つとミヤマクロユリが再び花を咲かせる」と八幡さんは嬉しそうに語ります。

しかし、防鹿柵は冬の積雪で折れ曲がることも多く、「継続的な維持補修が不可欠」だといいます。大変な作業だが、遠方から集まる仲間との交流も大きな活力になっています。

ちなみに八幡さんにはもう一つの顔があります。学生時代からの少林寺拳法は今年で40年目。六段の腕前を持ち、今も修行を継続中です。ボランティア活動と武道の鍛錬。八幡さんの静かな情熱は、今日も南アルプスの花々と共に息づいています。

(取材/切石・大屋敷美芳)

かなえびと

No.64



No.138

2年目のバスケットボール

下茶屋 大石 咲 優さん(5年生)



小学校3年生からバスケットボールを始め、今小学校5年生で2年目になります。

始めの頃は、ドリブルのやり方さえ分からなかった私は、ボールを見ず

にドリブルができるようになりました。コートからのいろんなわざのお題が出て、今は、ダブルレッグ百回にちようせんしています。

早くお題がクリアできるようにとデイフェンスを今よりもっと練習して、誰にもぬかれないプレイヤーになりたいです。

編集後記

思いがけず、今年度の広報委員になりました。

編集会議に出席し、公民館報が幾つもの過程と大勢の皆さんの手を介して

完成することを知りました。これまでは、回覧板

で回って来たものをパラパラと捲り、知り合いの

写真を見つける程度でしたが、関わってみると紙

面の見え方が変わり、これまで素通りしてきた記

事も「なるほど、こんな人がいるのか」と、読み返しています。

さてこの夏も県地区では、多くの行事が行われました。皆さんも、参加

されたでしょうか？私も地元の納涼祭、人形劇フ

エスタに参加しました。他の地区はどんな様子で

したでしょうか？紙面を読み、楽しもうと思いま

す。

(東鼎 S・K)